



淫辱の被師



物欲、食欲、情欲…
欲望の力は時に
怨嗟の念をも凌駕する
強大な力となり
そしてその「量」は
膨大である

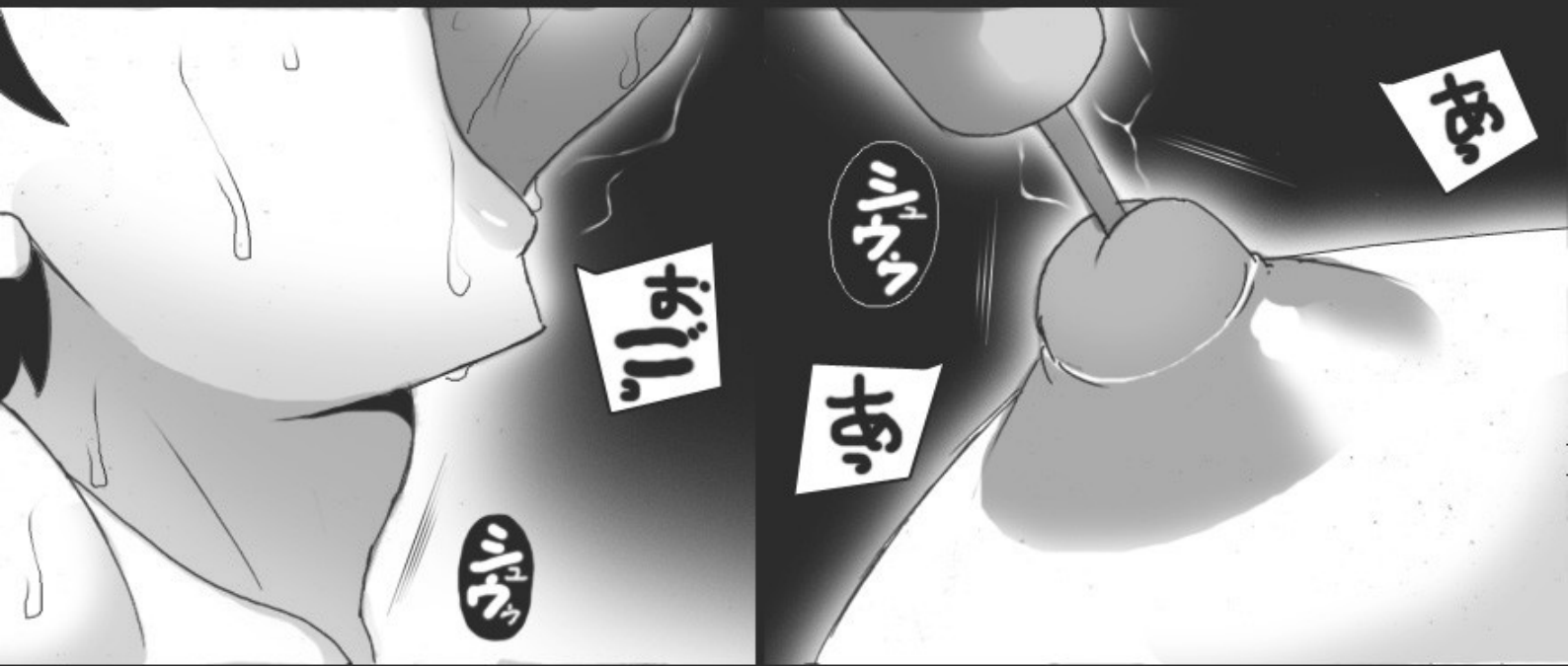
その膨大な念の一部が
ある時「一つ」に重なり
この世に「形」を持つて
生まれてきてしまう世界線
この生まれてきたモノを
一部の人間は「オニ」と呼び
これを畏怖した

オニは人間の
欲望そのものであり
目を付けた人間を
様々な方法で
手に入れ、犯し、戮り

生きている人間が持つ
彼らオニの好物でもある「生氣」を
事切れるまで吸いつくし
最後には貪り喰らう
それ「だけ」の存在であり
その行動に思慮も理性も無い

彼らオニに対抗する為に
人間の中から選ばれた者達が
「祓師」となって
各地を巡り彼らを祓っていた







…まったく
お前達オニは
どいつもこいつも…



「そういう風に生まれた」とはいえ
私達人間を嬲り犯す事しか
頭に無いのか…?



「私達」のような者が
存在し今も受け継がれて
いるのだろうか…



…まあ
だからこそ

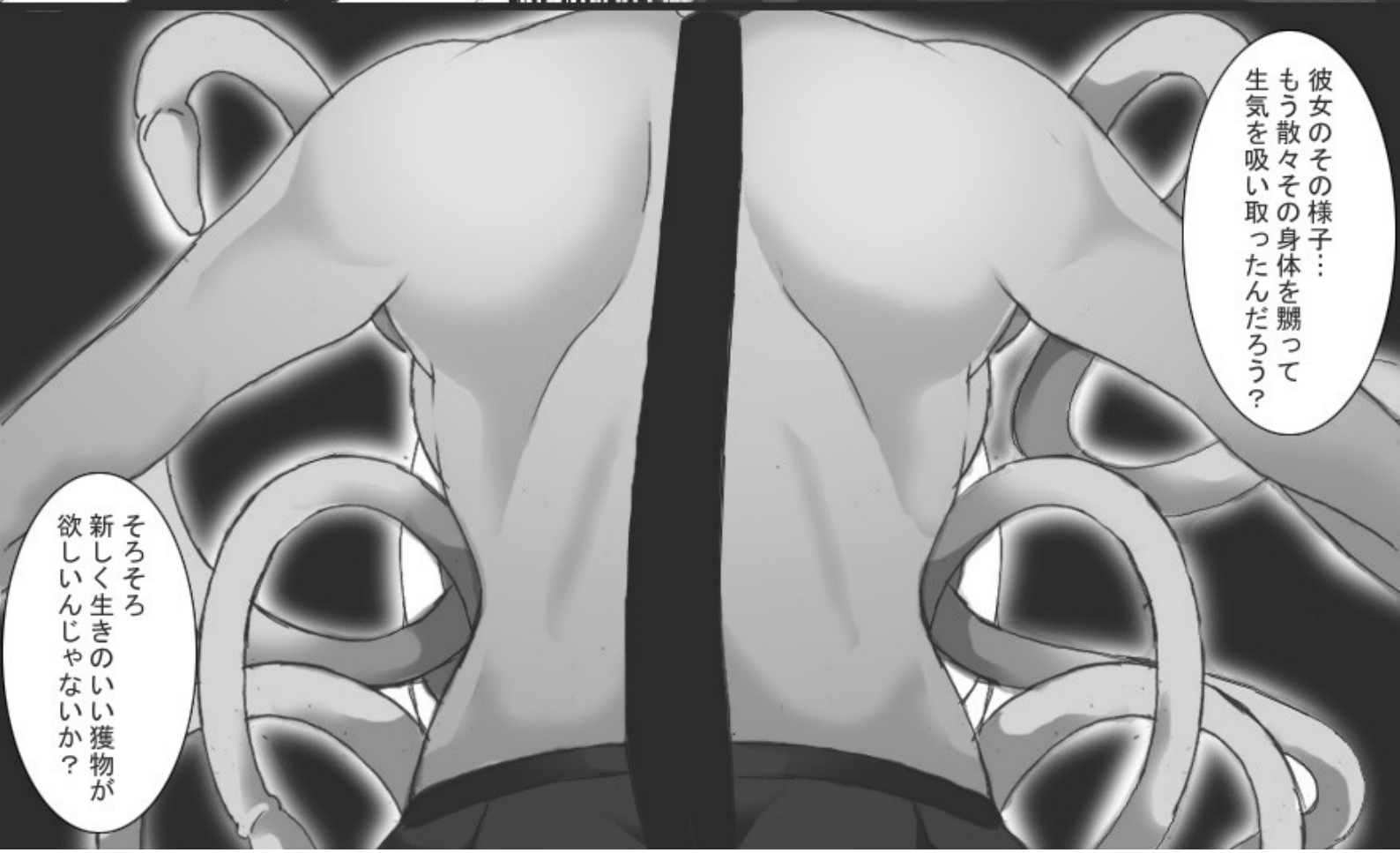


その人を離せ
オニ！

祓師
焰野 来夏
(えんの らいか)



代わりに私が
お前の相手をしてやる

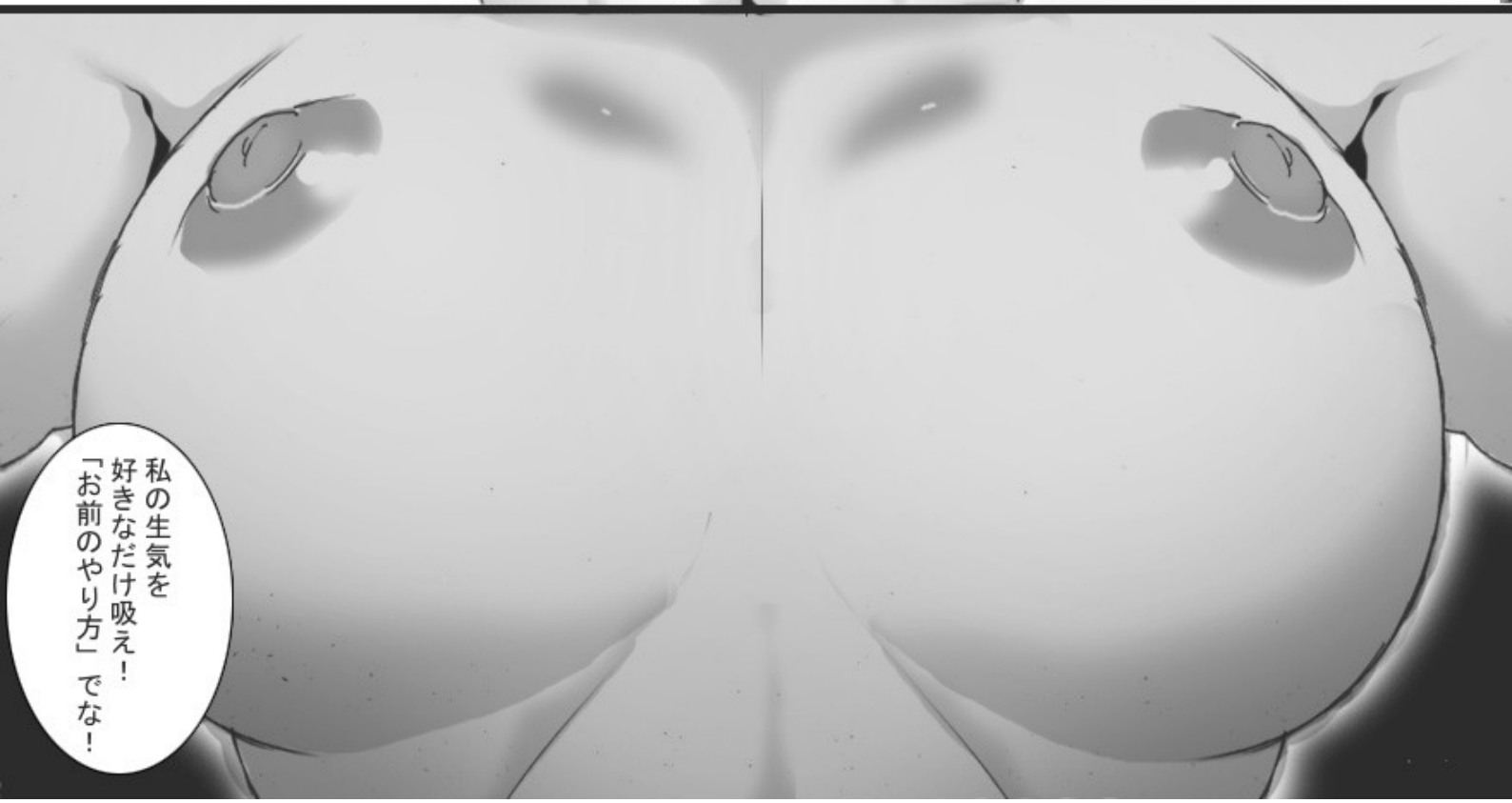


彼女のその様子…
もう散々その身体を舐って
生気を吸い取ったんだろう？

そろそろ
新しく生きのいい獲物が
欲しいんじゃないか？



私がお前の
新しい相手になってやる！

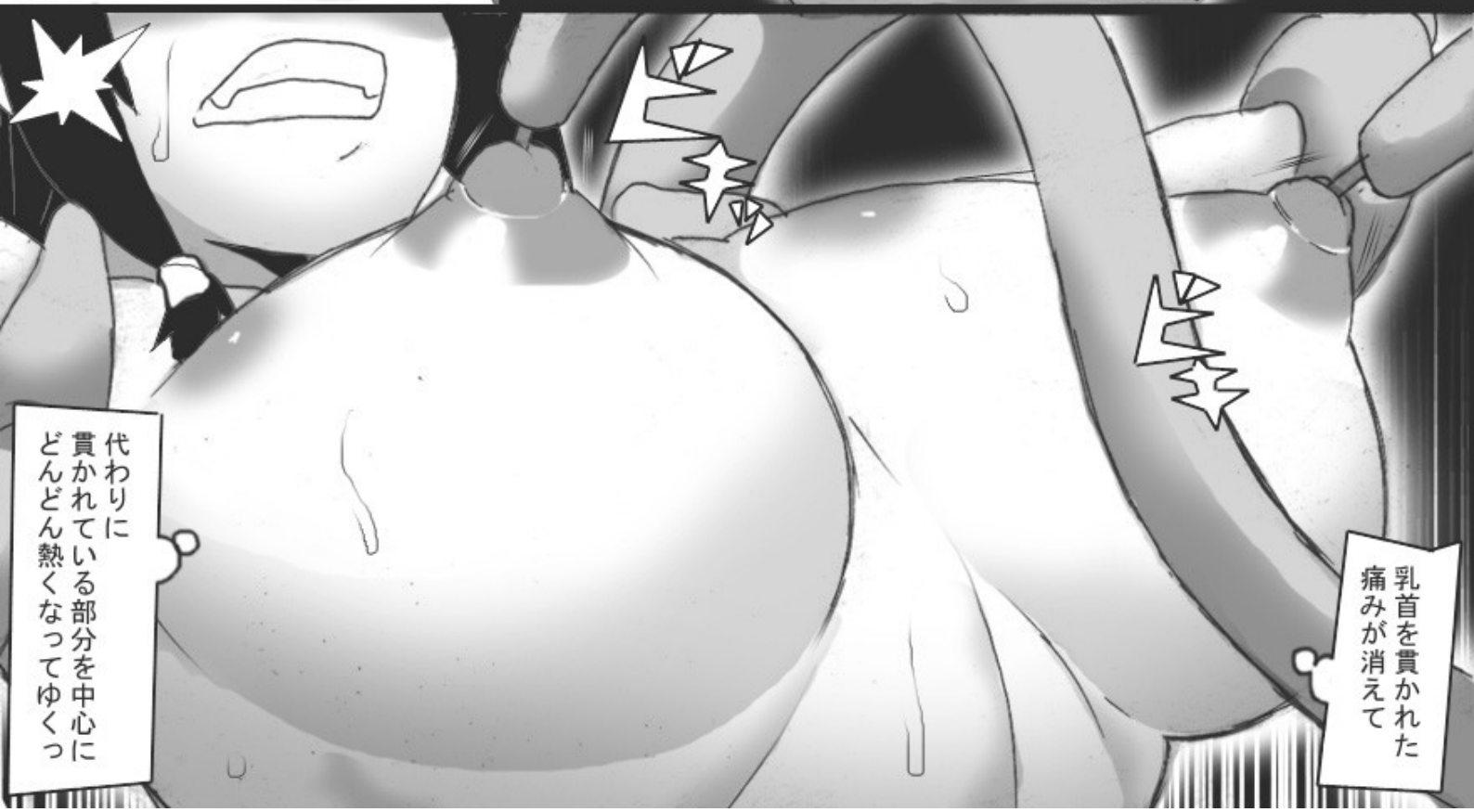


私の生気を
好きだけ吸え！
「お前のやり方」でな！



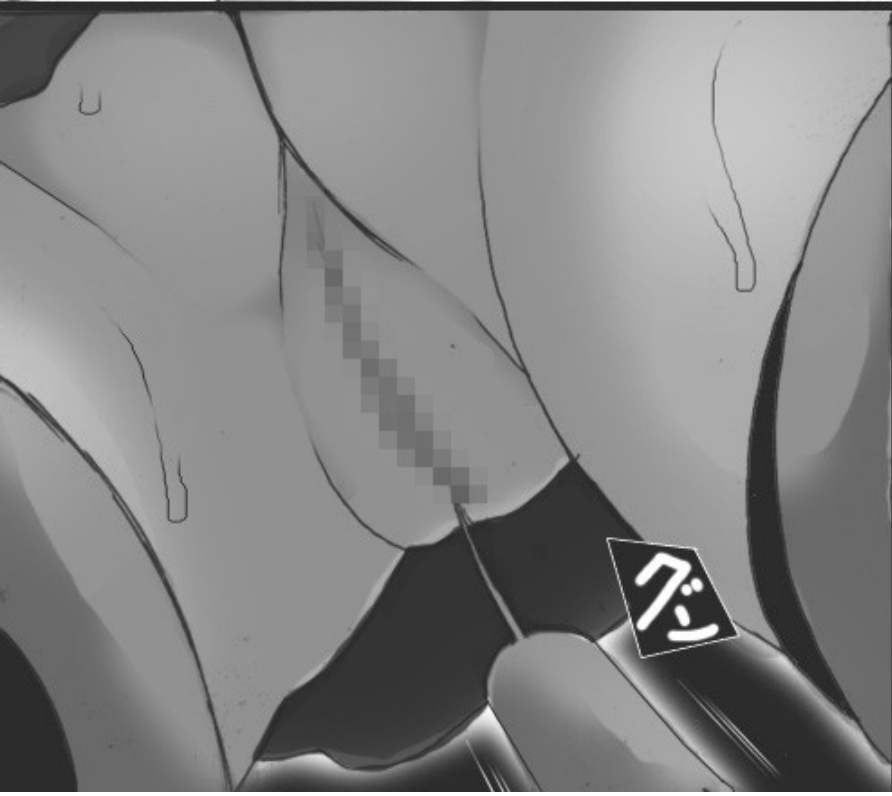


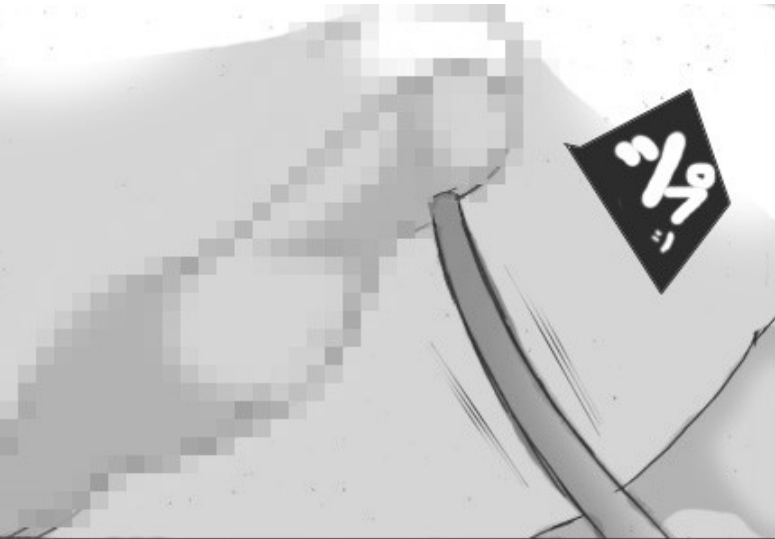
くっ…!!
乳首から
私の乳房の中に
何か流し込んで…っ!!



乳首を貫かれた
痛みが消えて

代わりに
貫かれている部分を中心に
どんどん熱くなつてゆくっ





くっ……！
あ……アソコにも
何かを流されて……っ

ああっ！

あっ……！

痛みが
無くなっていく代わりに
熱く……圧迫されるような感覚が
刺された部分を中心に広がっていく……！



乳首から体内に流された
この淫霊の何らかの体液が
私の乳房の感覚を
おかしくしているんだ…っ！

私の乳房は今
何をされても感じる感覚が
快感になってしまおうように
変えられている

与えられる刺激が
強ければ強いほど
感じる快感も
大きく…っ！

ズボ

ズボ

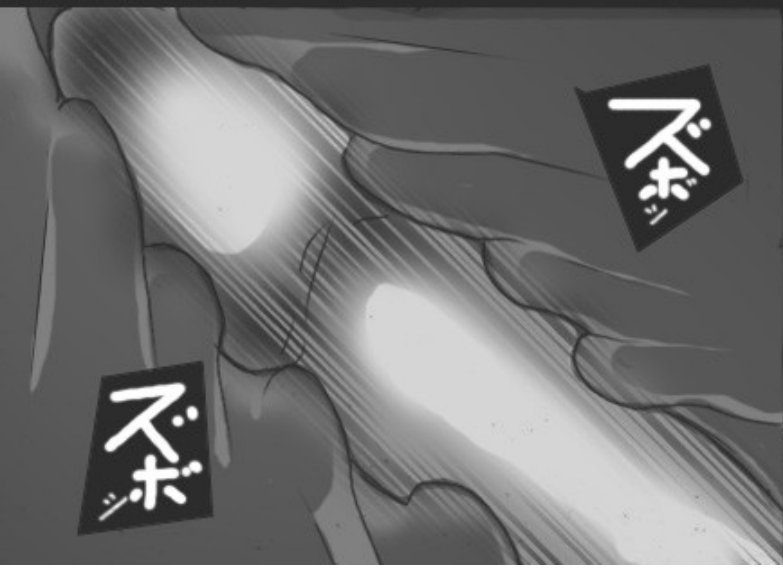
ズボ

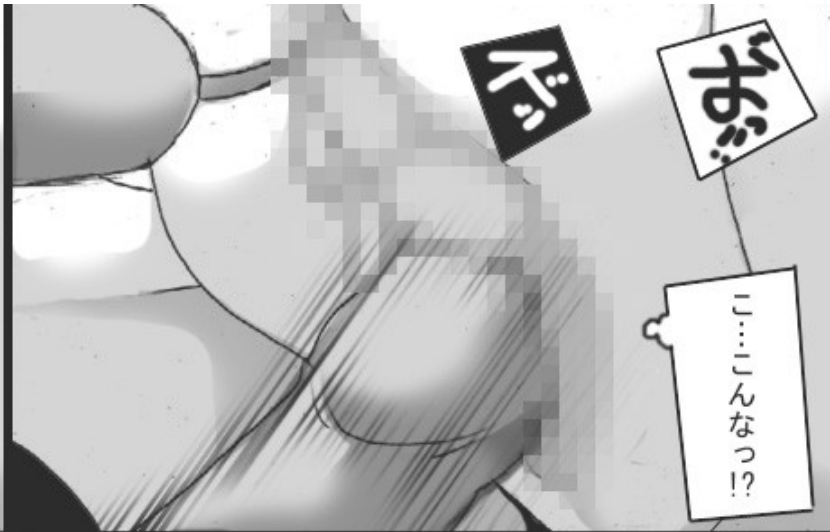
ズボ

あ、

…っ!?
という…とは
「下」も…っ!?







感じる感覚が
全て快感になって
私の全身を
さらに駆け巡る…っ！

か…体の中を
触手が這いずる
おぞましい感触を…っ！





か…体が
く…苦しいのに
それ以上の快感に
い…意識が…あ！

っ！駄目だ…！
この快樂に身を
委ねてはいけない…！

委ねたら最後
このオニに身体を犯され続け
快樂漬けにされた挙句



抵抗を失った私の身体から
事切れるまで生気を
吸われ尽くされてしまう…！

「靈力」：この世を彷徨う
オニのような
負の思念体に対抗できる
人が内に持つ別の力
靈力にはオニを
祓う力を秘めている、が

オニに有効な
靈力の高い人間でも
祈祷や除霊の類では
祓う事が出来ない

オニは
実体のない思念が
実体を持つほどに
現世に執着する
力が強い為



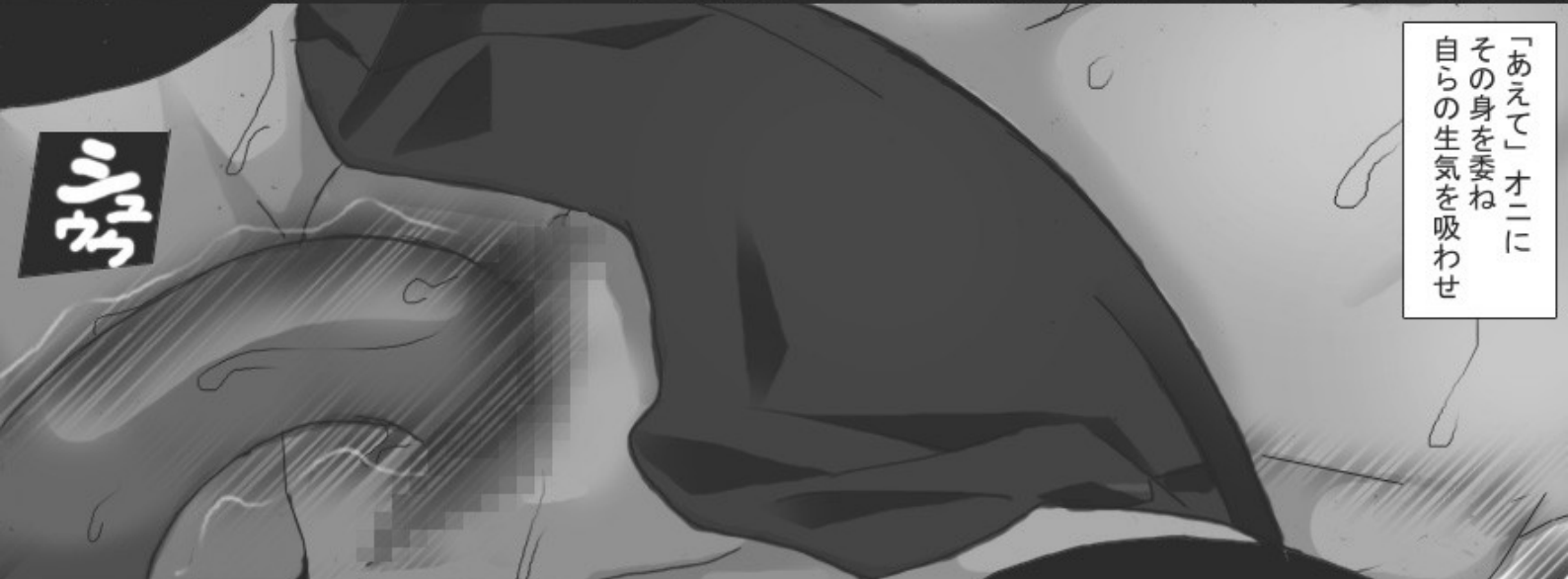
かといって
実体を持つといっても
あくまで本質は概念に近い為
物理的な攻撃も一切通用しない



そこで編み出されたのが
毒を以て毒を制す



選ばれた者にとって
とても表ざたには出来ない
過酷な対抗術



「あえて」オニに
その身を委ね
自らの生気を吸わせ

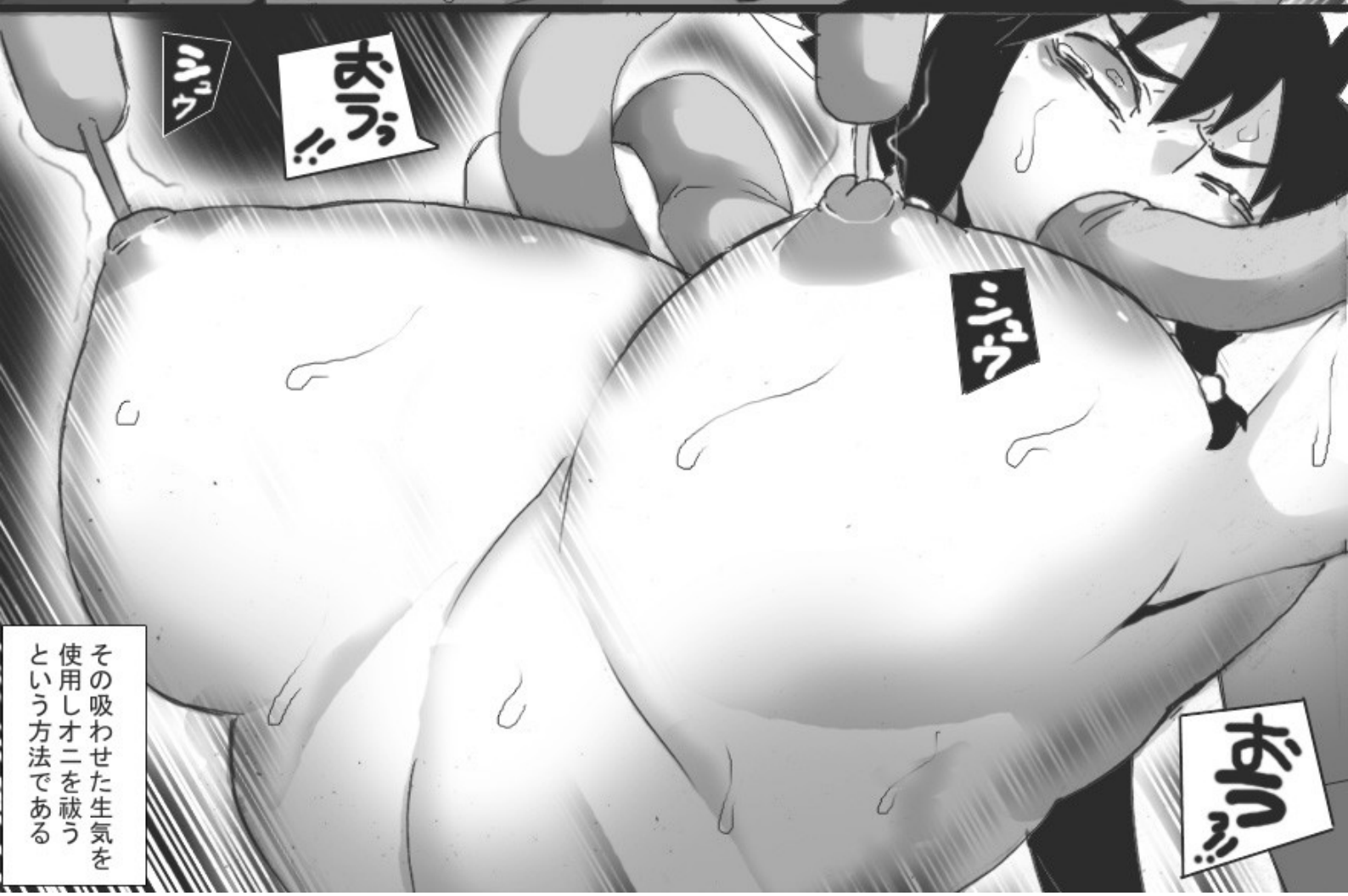
ニギハ

まう

ハム

ニギハ

おつ



その吸わせた生気を
使用しオニを祓う
という方法である

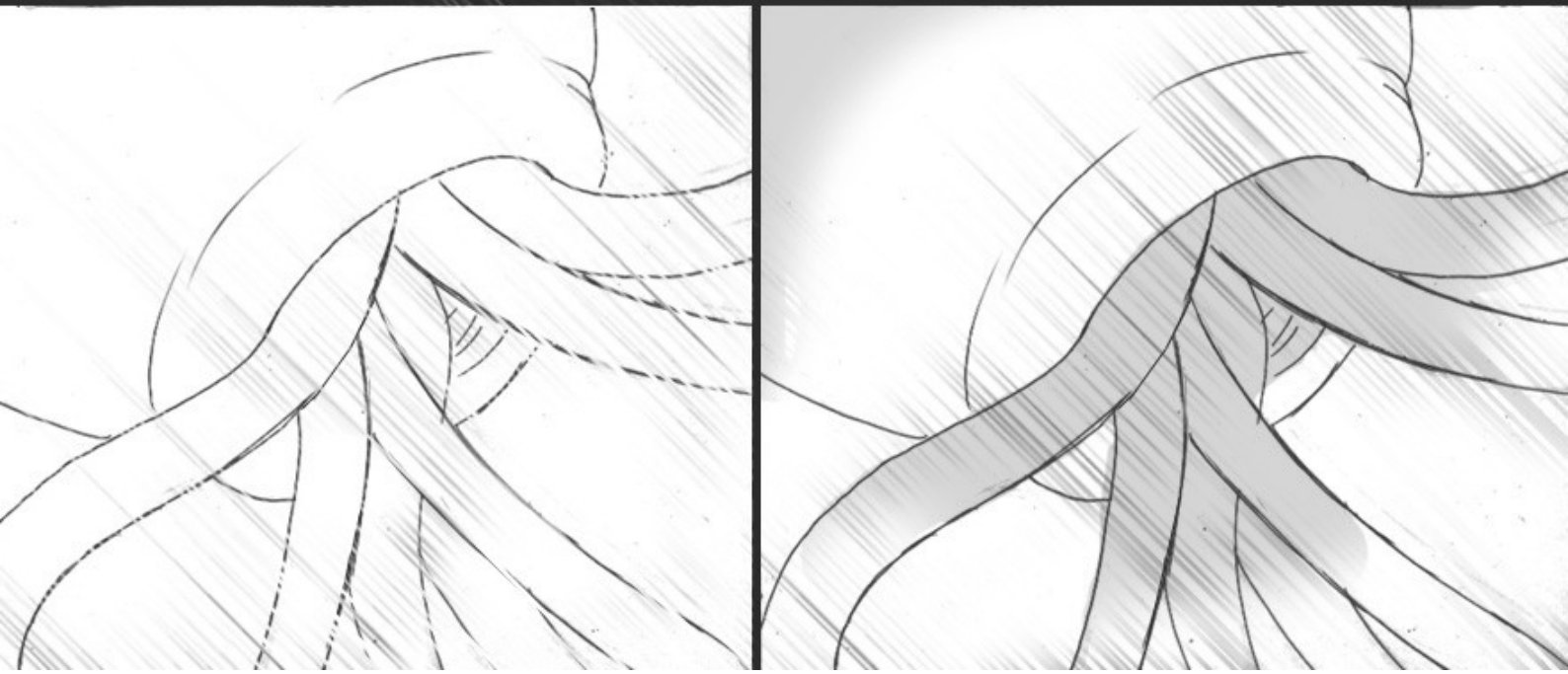
生きている人間の霊力は
体内を巡る
生気と共にあるものが
もっとも純度が高く
強い力を持っている

生まれつき霊力が
高い者であればある程
その内に秘めた霊力は高く
オニに対抗できるほどに
強力である

しかし
いくら強い霊力を持っていようと
その力を自らの意思で
コントロールできなければ
生気と共にオニに吸われるだけ

オニに生気と共に吸われた
自らの霊力をオニの内側から
炸裂させる術を会得するために
修練を施される

そこで
祓師として「選ばれた者」は
体内を巡る自分の霊力を
コントロールし





オニを祓う者として
選ばれた「彼女達」の戦いは
任期を全うするか



快楽に屈し
闇に飲み込まれるまで続く





















